

がんばるどんとお米

名久井小学校（南部町）

二年 **立**^{たち} **花**^{ばな} みちる

わたしは、南ぶ町にある、名久井小学校に通っています。学校でたのしみな時間はきゆうしよくの時間です。みんなとむかい合ってたべるごはんがおいしいからです。でも、今年は、コロナウイルスで、人とむき合ってお話をしながらたべることをがまんしなければいけませんでした。

岩手でお米をつくっている、とおのおじいさんやおばあさんにも、会いに行けなくて、がまんしました。なぜならば、わたしのお父さんやおかあさんは、ふくししせつではたらいっているからです。コロナウイルスにかんせんすると、たいへんなので、大じな人をまもるために、いろいろなことをがまんしました。

がまん、がまん、ガマン、ガマンで、どこにも行けないし、やりたいこともできなかつたので、おもしろくなかったです。でも、おとなの人は、がんばっていました。

南ぶ町の町長さんは、きゆうしよくでみんなを元気にさせる「がんばるどん」を考えてくださいました。がんばるどんには、ほかほかのごはんの上にハンバーグと目玉焼きとお肉がついていて、テンションが上がりました。

でんわで、岩手のおばあさんやおじいさんに、がんばるどんがおいしかったお話をしたら、こんなことを言っていました。

「コロナだって、なんだって、まい日ごはんをたべなきゃならないんだ。どごさも行けないけどお米はつくってるからね。」

わたしは、ごはんが大こうぶつなので、ごはんをたべながらいろんなことを考えました。コロナでがまんしなきゃならないことはあるけれど、コロナでも、かわらないこともあります。それは、お米がなくなるとこまることと、ごはんは毎日たべるということです。

これからも、たいへんなことがあるかもしれないけれど、ごはんをしつかりたべて、えがおですごしたいとねがっています。